

新たな未来の幕開け



有田市長
望月 良男

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、昨年中は、市政各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、8月の台風20号や9月の台風21号、24号と3つもの台風が有田市に接近し、暴風による家屋の一部損壊や農業施設の被害、長時間に及ぶ停電の発生、また高潮による床上・床下浸水等の甚大な被害が発生するなど、いつになく災害に見舞われた年でありました。

市公園を整備する「BIGSMILEプロジェクト」があります。本年より施設の建設に着工する予定であり、スポーツを通じ市民の皆様が集い、幅広い世代が交流する拠点となるよう整備してまいりたいと考えております。

また、インフラ整備において、完成が待ち望まれている有田海南間の新国道42号バイパス工事は、着々と進んでおり、一日も早い完成に向けて引き続き、積極的に国へ要望してまいります。

今後、この有田市の素晴らしい自

有田市の明るい未来に向けて



有田市議会議長
万賀 幸雄

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、市議会を代表いたしまして謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、平素は、市議会に対しまして温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が議長に就任いたしましたして、早や2年目の春を迎えようとしています。その責任の重大さをあらためて痛感すると共に、有田市の明るい未来を願い、決意をあらたにしている次第で

社会、経済情勢の変化に対し、柔軟に対応していかなければなりません。その様な中、私も市議会といたしましても、従来の発想にとらわれることなく、有田市の明るい未来に向け、議員一同、努力してまいる所存でありますので、市民の皆様におかれましては、今後とも更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が、市民の皆様方にとりまして、実り多き一年でありますようにご祈念申し上げ、年頭のごあいさついたします。

新年のごあいさつを 申し上げます

新しい年を迎え、議員一同力を合わせ、有田市の発展のために頑張ってください。年頭にあたり、市民の皆様方より一層のご活躍とご多幸を心からお祈りいたします。(虚礼廃止につき、皆様方への年賀状は勝手ながら失礼させていただきます。)

- | | |
|-----|--------|
| 議長 | 万賀 幸雄 |
| 副議長 | 児嶋 清秋 |
| 議員 | 一ノ瀬 敦子 |
| | 池田 敦城 |
| | 岡田 行弘 |
| | 中谷 桂三 |
| | 辻本 意典 |
| | 堀川 明 |
| | 生駒 三雄 |
| | 宇野 博治 |
| | 福永 広次 |
| | 西口 正助 |
| | 浜口 元司 |
- (議席番号順)

しかし、一方ではこれまで取り組んできた各分野での事業が、実を結びスタートした年でもありました。子育て施策におきましては、図書館跡に有田市子育て世代活動支援センター「Waku Waku」をオープンさせ、子どもがのびのび遊べる場所、また親御さん同士の子育てに関する情報交換等、交流の場として、市内外を問わず多くの子育て世代の方々にご利用いただいております。

また、産業振興施策におきましては、「西海岸エリア5つ星プロジェクト」において、地ノ島の活性化策の一環として、西日本初の「無人島シネマキャンプ」を開催するなど、地ノ島を活用し、盛り上げるため、地域や民間企業の方々と一緒に考え、話し合い、協働することで様々なイベントを展開し、関西圏をはじめとした多くの方々にお越しいただくことができました。

そして新たな事業として、初島地区に屋内型のプールを備えた健康増進施設をはじめとした運動型都

然と向き合い、いかに守り、いかに活かしているのかを今を生きる私たちがしっかりと考え、次世代へと引き継ぐべく、「有田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をはじめとして、未来に向けた施策を実行してまいります。そのためには、世の中の動向を注視しながら、有田市全体ととりまく環境変化に柔軟に対応していく取組みが必要です。

平成の元号では最後の新年を迎え、5月には新元号による新たな時代が始まります。平成を次の新しい元号へとつなぐ重要な一年と位置づけ、未来に向けた投資によってイノベーションを起こし、発展させていくことで、有田市にとって新たな未来へと歩を進める幕開けの年にしたいたいと思いますので、市民の皆様には一層のご参画とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

結びに本年が皆様にとりまして、幸多き年となりますことを心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

昨年を振り返りますと、6月の大阪府北部を震源とする地震をはじめ、7月には西日本を中心とした多くの地域で、記録的豪雨による河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生するなど、日本各地で多くの自然災害が発生しました。

本市におきましても、台風20号、21号の接近により、人的被害をはじめ、広範囲にわたる建物の損壊や農業被害、長時間に及ぶ停電など、近年に例をみない多くの被害が発生しました。被災されました皆様には、衷心よりお見舞いを申し上げます。

さて、安心して暮らせるまちづくりのため、直ちに出来る対策に取り組むことはもちろんのこと、国や県、市町村間において、より一層の協力体制を構築し、日本全体が協力して防災、減災対策を推進していく必要性を強く感じました。

また、少子高齢化に伴う人口減少に伴い、財政状況も厳しくなる中、本市におきましても、ますます多様化する